

令和5年度

SYLLABUS

～ Approach to Studying ～

2年 環境科学科



香川県立高松南高等学校

はじめに

皆さんは、マンガを読みますか？テレビやパソコンでゲームをしますか？

マンガやゲームが生活に深く根付いている今、マンガを読んだことやゲームをしたことのない人を捜すのは至難の業でしょう。中には、自分の時間のほとんどを、マンガやゲームに費やす人もいたりして…。

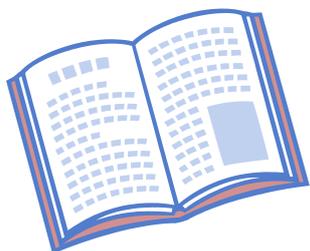
ところで、なぜ、マンガを読んだりゲームをしたりするのか考えたことがありますか。何人かの生徒に聞いてみると、「面白いから」とか「ストレス解消」という答えが返ってきました。しかし「なぜ、そんなことを聞くのか」と、逆に質問されてしまいました。楽しいことに対して「なぜそれをするのか」と聞くことが、そもそも不思議だったようです。

では、勉強についてはどうでしょう。「なぜ勉強しなければいけないのか」、「こんな勉強をして何になるのか」。そう思ったことはありませんか。この質問にズバリ答えるのはとても難しいことです。考古学者の平賀・キートン・太一氏は、閉鎖されるパリのシモンズ社会人学校の冬季セミナー最後の講義で、「人間は一生学び続けるべきです。人間には好奇心、知る喜びがある。肩書きや、出世して大臣になるために学ぶのではない。それが人間の使命だからです。」と本質的理由を受講生に語っています。少し考えてみても、テストに出る、成績が上がるとお小遣いも上がるなどの外発的理由や、将来の仕事に役立つ、分かれると充実感があるなどの内発的理由まで様々でしょう。

シラバス (Syllabus) の語源はギリシャ語の「Sittuba」で、元々は羊皮紙製の書籍ラベルのこと。明治時代には「教授要目」などと訳されていたようです。ページをめくっていただければお分かりのように、本校のシラバスは、科目の概要や学習目標、授業計画、学習方法など、履修や選択するために必要な情報をコンパクトにまとめています。

高等学校での学習の基本は「授業」。もちろん家庭学習も大切ですが、毎日の「授業」をないがしろにして、家庭学習は成立しません。

折に触れ、シラバスのページをめくってください。きっと、授業を通して何をどう学ぶのかを考える手助けになるはずです。



参考文献：『開かれた学びへの出発』市川伸一（金子書房）

『MASTER キートン』勝鹿北星（小学館）

環境科学科

◎科の目標

- ・環境に配慮した農作物の栽培と生産物の活用及び地域環境の創造・保全に関する知識と技術を学び、都市型施設園芸を中心とする農業技術者又は農業土木に関する業務に従事する技術者の養成を目指します。
- ・環境学習やコースに関する実験・実習を中心とした「農業と環境」「栽培と環境」「測量」「農業情報処理」「総合実習」「課題研究」等を学習します。
- ・2年次よりコースを選択し、「都市園芸コース」「環境土木コース」の2コースに分かれて学習します。

◎資格取得・進路

- ・トレース技能検定、危険物取扱者（乙種・丙種）、測量士補
小型車両系建設機械講習、ガス溶接
- ・大学、短大、専門学校への進学、公務員及び各種企業への就職

①都市園芸コース

◎「草花」「野菜」「果樹」「農業経営」など

自然環境との調和を図った都市型施設園芸に対応した知識・技術を学習します。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
1年	現代の国語	言語文化	公共	数学Ⅰ	科学と人間生活	体育	保健	芸術Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ	家庭基礎	農業と環境	総合実習					農業と情報	測量	LHR													
2年	文学国語	地理総合	数学Ⅰ	生物基礎	体育	保健	英語コミュニケーションⅠ	課題研究	総合実習	農業と情報	野菜	果樹	草花	水循環	社会基盤工学	LHR																
3年	文学国語	歴史総合	数学A	生物基礎	体育	論理・表現Ⅰ	課題研究	総合実習	野菜	果樹	草花	栽培と環境	農業経営	農業機械	LHR																	

・総合実習は時間割外実習2単位を含む。

②環境土木コース

◎「測量」「農業土木設計」「農業土木施工」「水循環」など

自然環境と調和した地域環境の設計や創造に必要な知識・技術を学習します。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
1年	現代の国語	言語文化	公共	数学Ⅰ	科学と人間生活	体育	保健	芸術Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ	家庭基礎	農業と環境	総合実習					農業と情報	測量	LHR													
2年	文学国語	地理総合	数学Ⅰ	物理基礎	体育	保健	英語コミュニケーションⅠ	課題研究	総合実習	農業と情報	農業土木設計	農業土木施工	水循環	測量	社会基盤工学	LHR																
3年	文学国語	歴史総合	数学A	物理基礎	体育	論理・表現Ⅰ	課題研究	総合実習	栽培と環境	農業経営	農業機械	農業土木設計	農業土木施工	水循環	LHR																	

・総合実習は時間割外実習2単位を含む。

目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(知識及び技能)
- (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の特徴や使い方、言語文化に関することなど、学んだことの80%以上理解できる。 ○他の考え（作品の主題や筆者の考え）と自分の考えを比較検討し、新しい考えや発想を生み出せる。(読む) ○作品の背景や他の作品などとの関係を踏まえて、作品を解釈したり、評価したりできる。(読む) ○読み手が理解しやすく、場に応じた表現ができる。(書く) 	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の特徴や使い方、言語文化に強い興味や関心を持ち、理解しようとする強い意欲がある。 ○自ら言葉を使って他者に関わろうという強い意欲がある。
	ステップ	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の特徴や使い方、言語文化に関することなど、学んだことの65%以上(80%未満)理解できる。 ○作品そのものの内容を解釈したり、評価したりできる。(読む) ○自分の伝えたいことを、まとめたり、伝えたりできる。(書く) 	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の特徴や使い方、言語文化に興味や関心を持ち、理解しようとする意欲がある。 ○言葉を使って他者に関わろうという意欲がある。
	ホップ	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の特徴や使い方、言語文化に関することなど、学んだことの40%以上(65%未満)理解できる。 ○教師等による解説や助力を頼りに、作品そのものの内容のある程度解釈したり、評価したりできる。(読む) ○自分の伝えたいことを、ある程度まとめたり、伝えたりできる。(書く) 	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の特徴や使い方、言語文化に興味や関心を持つようとし、理解しようとしている。 ○言葉を使って他者に関わろうとしている。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「文学国語」（東京書籍）

副教材 「学習課題ノート」（大修館書店） 「新版六訂カラー版 新国語便覧」（第一学習社）
「漢字の学習」（香川県高等学校国語教育研究会）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	●随筆「光の窓」等 ●小説「山月記」等
2 学期	●詩歌：詩「永訣の朝」等 ●小説「こころ」等
3 学期	●詩歌：短歌「硝子の駒・・・」等 ●小説「あの朝」等

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 予習として、教科書を読んで、わからないところを発見しておく。
- ・ 「聞く・話す」、「書く」、「読む」のそれぞれの力について、自分の課題やできるようになりたいことを意識しながら授業に臨み、授業で何がわかったか、できるようになったかを振り返る習慣をつける。
- ・ 板書を写し取るだけでなく、自分の考えや感想、疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、自分で工夫をしたノート作りをする。
- ・ 提出物は丁寧に仕上げ、期限を守って提出する。
- ・ 読書を習慣化するなど、日常生活の中に「読む・書く・話す・聞く」を積極的に取り入れる。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・振り返りシート ・感想 ・レポート ・長期休業中の課題
重みづけ	1	1	1
	高校での国語の学習の基本となる科目です。3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<p>観点別：A</p> <p>シ ャ ン プ</p> <p>評定：5</p>	<p>世界の地域的特徴を、自らの生活や日本と比較することができる。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ○世界の地域的特徴を自らの生活や、日本と比較したり、結びつけながら深く理解している。 ○主題図やグラフ・表などを自らの力で正確に読み取ることができる。 ○自らの力で効果的に主題図やグラフ・表を表現できる。 ○学びを深めるために必要な情報に気づき、それを自ら収取できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○論理的に討論や議論をすることができる。 ○主題図・グラフなどを用いて効果的に自分の考えを表現できる。 ○多面的・多角的に考察したり、評価したり、自分の考えを持つことができる。 ○自分の考えを文章で論理的かつ的確に相手に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活や他教科で学んでいることと結びつけることができる。 ○常に創意工夫し、課題を解決しようとする。 ○自分の人生との関わりを意識しながら学習に取り組むことができる。 ○常に学習態度が主体的・対話的で、より深く学び続けようとしている。
<p>観点別：B</p> <p>ス テ ッ プ</p> <p>評定：4</p>	<p>世界の地域的特徴を、日本と比較することができる。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ○世界の地域的特徴を日本と結びつけながら理解している。 ○主題図やグラフ・表などを自らの力で読み取ることができる。 ○自らの力で主題図やグラフ・表を表現できる。 ○学びを深めるためには新しい情報が必要なことに気づくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自らの言葉で討論や議論をすることができる。 ○主題図やグラフ・表を用いて自分の考えを表現できる。 ○教師の必要最小限の助力によって多面的・多角的に考察したり、評価したり、自分なりの考えを持つことができる。 ○自分の考えを文章で相手に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身の回りの生活と関連付けて学ぼうとしている。 ○学び方や取り組み方を改善し、学び続けようとする。 ○自分の進路目標との関わりを意識しながら学習に取り組むことができる。 ○学習態度が主体的・対話的で、学び続けようとしている。

成長のプロセス

観点別：C ホ ツ プ 評定：3	世界と自らの生活や日本とのつながりを理解することができる。		
	○世界の地域的特徴について基礎的・基本的な内容を理解している。 ○教師等の助力があれば主題図やグラフ・表などに含まれている地理的情報を読み取ることができる。 ○教師等の助力があれば主題図やグラフ・表を表現できる。 ○教師等の助言があれば、学びをさらに深めるためには、新しい情報が必要なことに気づくことができる。	○教師等の助言があれば、討論や議論をすることができる。 ○教師等による個別の助言があれば、主題図やグラフ・表を用いて自分の考えを表現できる。 ○教師等による個別の助言があれば、深く考察をしたり、自分なりの考えを持つことができる。 ○教師等の助言があれば文章で自分の考えを相手に伝えることができる。	○基礎的・基本的な地理的知識や技術、考察力を身につけようとしている。 ○学習内容をさらに理解するために学び方を改善しようとする。 ○教師の助力があれば進路実現に向け、学習に取り組むことができる。 ○学習態度が主体的で、提出物などを期日までに自分の力でやりきることができる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「新地理総合」（帝国書院） 「新詳高等地図」（帝国書院）
 副教材 「新地理総合ノート」（帝国書院）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

	単元名・学習内容
1 学期	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム 1節 地図上の位置と時差 2節 地図の役割と種類 第2章 結び付きを深める現代世界 1節 現代世界の国家と領域 2節 グローバル化する世界 第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性 1節 世界の地形と人々の生活 2節 世界の気候と人々の生活 3節 世界の言語・宗教と人々の生活
2 学期	4節 歴史的背景と人々の生活 5節 世界の産業と人々の生活 第2章 地球的課題と国際協力 1節 複雑に絡み合う地球的課題 2節 地球環境問題 3節 資源・エネルギー問題 4節 人口問題 5節 食料問題
3 学期	6節 都市・居住問題 第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境 2節 地震・津波と防災 3節 火山災害と防災 4節 気象災害と防災 5節 自然災害への備え 第2章 生活圏の調査と地域の展望 1節 生活圏の調査と地域の展望

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業を大切に、板書された事柄だけでなく、先生の補足説明も書く習慣を身に付けるようにする。
- ・主題図の作成などの作業には丁寧に取り組むようにする。
- ・普段から地図帳に目を通し、的確な世界地図を思い描けるようにしておく。
- ・普段から新聞等に目を通し、国際社会の動向を的確に掴んでおく。
- ・地図やグラフ、表などの資料から論理的に考察する習慣を身に付けるようにする。
- ・自ら地理的な課題を見つけ、自分の考えをまとめ、発表できるようにしておく。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート ・長期休業中の課題
重みづけ	1	:	1
	3つの資質・能力をバランス良く身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目 標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数と式、二次関数についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
(知識及び技能)
- (2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
 ジャンプ	○公式・法則、用語などを理解し、導くことができる。 ○副教材の応用問題の解法を理解している。	○十分に数理的に考察する力を付けている。 ○応用問題の解法を自分の言葉で表現し、記述できる。	○問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 ○副教材の応用問題に積極的に取り組む姿勢をもつ。
 ステップ	○基本的な概念、原理・法則、用語・記などを理解している。 ○副教材の基本的な内容をおおむね理解している。	○おおよその数理的に考察する力を付けている。数を拡張することに興味を持つ等。 ○基本問題の解法を自分の言葉で表現し、記述できる。	○教科書で学んだ範囲に対し、副教材で復習を行う。 ○提出課題等、計画的に行っている。



ホ
ツ
プ

○数学用語・公式を理解し、教師の説明を受けたり、例題を参考にしたりしながら練習問題に取り組む。

○教師の説明を参考にし、公式成立の理由を理解しようと努める。
○様々な解き方を模索することで論理的に考えることへの興味関心を高める。

○板書を写すだけでなく、教師の説明をメモするなど自分のノートを作る。
○間違った箇所をマークし、反復演習をする習慣をつける。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「数学Ⅰ Essence」 （東京書籍）
副教材 「ニュージャスト数学Ⅰ」 （東京書籍）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学 期	3章 三角比 1節 鋭角の三角比
2 学 期	2節 三角比の応用 4章 集合と論証 1節 集合と論証
3 学 期	5章 データの分析 1節 データの分析

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 予習として、教科書を見て疑問点をチェックしておく。（なぜ？なに？を大切に）
- ・ 積極的な態度で授業に臨み、授業で何がわかったかできるようになったかを復習するため、問題集を解く習慣をつける。（反復練習）
- ・ 板書を写し取るだけでなく、自分が考えるときのポイントや疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、自分で工夫してノートを取る。
- ・ 疑問点については、質問するなどして早めに解決する。
- ・ 教科書や問題集の基本問題を解くことによって、学習内容が身に付いているかどうかを確認するとともに、応用問題にもチャレンジするようにする。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 価 の 材 料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小テスト ・ 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ レポート ・ 授業における発表や成果物 ・ ノート ・ 長期休業中の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ノート ・ 振り返りシート、感想 ・ レポート ・ 長期休業中の課題
重 み	4	4	2

数学の学習の基礎となる基本的な「知識・技能」と「思考・判断・表現」の確実な習得を図るために、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を重視して成績をつけます。

目標

物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ○物体の運動と様々なエネルギーについての基本的な概念や原理・法則を深く理解し、知識を身に付けており、日常生活の中で活用することができる。 ○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを身に付けており、その注意点や理由についても説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○物体の運動と様々なエネルギーについて、科学的に探究するための観察や実験方法を自ら考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。 ○学習内容について、自ら観察、実験結果を考察し、規則性を見いだしたり、既知の事柄や原理・法則などを基に、新たに直面した事象を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察をすることができる。 ○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、テーマに沿って論理的、かつ効果的に表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容をそれに関する事物・現象と結びつけ、自ら進んで知識・技能や考察力を高めようとしている。 ○自分の学び方を常に振り返りながら創意工夫し、課題を解決することができる。 ○常に学習態度が主体的・対話的であり、より深く学び続けようとする姿勢が見られる。 ○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒等の発言などをノートに記録しており、疑問点等について書籍やインターネットなどを用いてさらに詳しく調べようとしている。
ステップ	<ul style="list-style-type: none"> ○物体の運動と様々なエネルギーについての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けており、教師等による最小限の助力で日常生活と関連付けることができる。 ○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○物体の運動と様々なエネルギーについて、科学的に探究するための観察や実験方法を教師等による最小限の助力で考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。 ○学習内容について、教師等による最小限の助力で、観察、実験結果を考察し、規則性を見いだしたり、既知の事柄や原理・法則などを基に、新たに直面した事象を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察をすることができる。 ○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、論理的に表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容をそれに関する事物・現象と結びつけ、自ら進んで知識・技能や考察力を高めようとしている。 ○自分の学び方を振り返りながら調整し、学び続けようとするることができる。 ○学習態度が主体的・対話的であり、課題に積極的に取り組んでいる。 ○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどを常にノートに記録している。
成長のプロセス	<ul style="list-style-type: none"> ○物体の運動と様々なエネルギーについての基本的な概念や原理・法則を理解している。 ○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作 	<ul style="list-style-type: none"> ○物体の運動と様々なエネルギーについて、科学的に探究するための観察や実験方法を教師等による解説や助力を頼りに考え、見通しをもって実験、観察を 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容を正確に理解するために、基礎的・基本的な知識・技能や考察力を身につけようとしている。 ○自分の学び方を振り返り、改

ホ ツ プ	などを，教師等による最小限の助力で行うことができる。	行うことができる。 ○学習内容について，教師等による解説や助力を頼りに，観察，実験結果を考察し，規則性を見いだしたり，既知の事柄や原理・法則などを基に，新たに直面した事象を論理的に説明しようとしたりするなど，科学的に考察をすることができる。 ○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で，形式に沿った表現ができる。	善すべき点について考えようとする。 ○課題や提出物などを，期日までに自分の力でやりきることができる。 ○授業内容を，板書だけでなく，教師や他の生徒の発言，自分の考えなどをノートに記録し，授業から多くの情報を得ようとする。 ”
-------------	----------------------------	---	---

■何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「新編物理基礎」 東京書籍

副教材 「新課程 ニューサポート 新編物理基礎」 東京書籍

■いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	1 編 物体の運動とエネルギー 1 章 直線運動の世界
2 学期	1 編 物体の運動とエネルギー 2 章 力と運動の法則
3 学期	1 編 物体の運動とエネルギー 3 章 力学的エネルギー

■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- 予習として、教科書を読み、興味・関心のある部分、疑問や理解できない部分を発見しておくこと。
- 授業を大切に、積極的に取り組み、復習・定期考査に役立つ丁寧なノート作成を心がけること。
- 復習として、問題集等を利用し、疑問点、理解できない部分は、積極的に質問すること。
- しっかりと自分の意見を発表したり、他人の意見を聞いたりすること。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> • 小テスト • 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> • 定期考査 • レポート • 授業における発表や成果物 • ノート • 長期休業中の課題 	<ul style="list-style-type: none"> • ノート • 振り返りシート、感想 • レポート • 長期休業中の課題
重みづけ	2	2	1
	基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」、「思考・判断・表現」の力を重視して成績をつけます。		

目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。(知識及び技術)
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
成長のプロセス	ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ○生物の特徴やヒトの体の調節、生物の多様性と生態系についての基本的な概念について深く理解し、自然の物事・現象を、科学的な視点でとらえることができる。 ○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを身に付けており、その注意点や理由についても深く理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生物の特徴やヒトの体の調節、生物の多様性と生態系について、科学的に探究するための観察や実験方法を自ら考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。 ○学習内容について、自ら観察、実験結果を考察し、規則性を見出したり、既知の事柄や原理・法則などをもとに、新たに直面した事柄を論理的に説明しようとするなど、科学的に考察することができる。 ○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、テーマに沿って論理的、かつ効果的に表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容をそれに関する事柄・現象と結びつけ、自ら進んで知識・技能や考察力を高めようとしている。 ○自分の学び方を常に振り返りながら創意工夫し、課題を解決することができる。 ○常に学習態度が主体的・対話的であり、より深く学び続けようとする姿勢が見られる。 ○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒等の発言などをノートに記録しており、疑問点等について書籍やインターネットなどを用いてさらに詳しく調べようとしている。
	ステップ	<ul style="list-style-type: none"> ○生物の特徴やヒトの体の調節、生物の多様性と生態系についての基本的な概念について深く理解し、科学的な視点でとらえることができる。 ○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生物の特徴やヒトの体の調節、生物の多様性と生態系について科学的に探究するための観察や実験方法を教師等による最小限の助力で考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。 ○学習内容について、教師等による最小限の助力で観察、実験結果を考察し、規則性を見出したり、既知の事柄や原理・法則などをもとに、新たに直面した事柄を論理的に説明しようとするなど、科学的に考察することができる。 ○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、論理的に表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容をそれに関する事柄・現象と結びつけ、自ら進んで知識・技能や考察力を高めようとしている。 ○自分の学び方を振り返りながら調整し、学び続けようすることができる。 ○学習態度が主体的・対話的であり、課題に積極的に取り組んでいる。 ○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどを常にノートに記録している。

ホップ

 ホップ	<p>○生物の特徴やヒトの体の調節，生物の多様性と生態系についての知識を身につけている。</p> <p>○科学的に探究するために必要な観察，実験に関する基本操作などを，教師等による最小限の助力で行うことができる。</p>	<p>○生物の特徴やヒトの体の調節，生物の多様性と生態系について科学的に探究するための観察や実験方法を教師等による解説や助力を頼りに考え，見通しをもって実験，観察を行うことができる。</p> <p>○学習内容について，教師等による解説や助力を頼りに観察，実験結果を考察し，規則性を見出したり，既知の事柄や原理・法則などをもとに，新たに直面した事柄を論理的に説明しようとするなど，科学的に考察することができる。</p> <p>○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で，形式に沿った表現ができる。</p>	<p>○学習内容を正確に理解するために，基礎的・基本的な知識・技能や考察力を身につけようとしている。</p> <p>○自分の学び方を振り返り，改善すべき点について考えようとする。</p> <p>○課題や提出物などを，期日までに自分の力でやりきることができる。</p> <p>○授業内容を，板書だけでなく，教師や他の生徒の発言，自分の考えなどをノートに記録し，授業から多くの情報を得ようとする。</p>
--	--	--	--

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「生物基礎」 （実教出版）
副教材 「アクセスノート生物基礎」 （実教出版）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	第1章 生物の特徴 ・生物の多様性と共通性 ・生物とエネルギー
2 学期	第2章 遺伝子とその働き ・遺伝情報とDNA ・遺伝情報とタンパク質の合成
3 学期	第3章 ヒトのからだの調節 ・体内環境 ・体内環境の維持のしくみ

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・予習として教科書を読み，興味・関心のある部分，疑問や理解できない部分を発見しておくこと。
- ・授業を大切にして積極的に取り組み，復習や定期考査前の学習に役立つよう，丁寧にノートを作る。
- ・復習として問題集等を利用し，疑問点や理解できない部分は積極的に質問する。
- ・実験は担当教員の指示に従っておこない，記録をとり，報告書（レポート）にまとめる。この際に疑問点，実験の成否についても考察すること。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート ・長期休業中の課題
重みづけ	2	2	1
	生物の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」、「思考・判断・表現」の力を重視して成績をつけます。3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ○各種目の高度な技を身に付けたり、記録の更新に挑戦したり、仲間に感動を与えられる表現ができる。 ○ゲームのルールや役割に応じた練習方法を工夫し、全員で楽しむためのルールの調整ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学んだ知識・技能を用いて、自己や仲間の課題解決のために効果的な練習方法を実践することができる。 ○学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を合理的・計画的に考察し、自分の考えを持つことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各種目の決められたルールやマナーを守るだけでなく、相手や仲間を尊重するなどのフェアなプレイを大切にできる態度が定着している。 ○怪我等を回避するための、適正な運動量や、とるべき行動を認識し、さらに他者への注意喚起を促す言動や行動により健康・安全を確保することができる。
ステップ	<ul style="list-style-type: none"> ○各種目の技を身に付けたり、記録に積極的に挑戦したり、感情を込めて表現したりすることができる。 ○ゲームのルールを理解し、教師や仲間からの助言をもとに、練習方法を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学んだ知識・技能を用いて、自己や仲間の状況に応じた適切な練習方法を実践することができる。 ○学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を最小限の助言によって理解し、自分なりの考えを持つことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各種目の決められたルールやマナーを守るだけでなく、相手や仲間を尊重するなどのフェアなプレイをしようと心がけている。 ○怪我等を回避するための、適正な運動量や、とるべき行動を認識し、健康・安全を確保することができる。

ホップ

○各種目の技を身に付けようと努力したり、記録に挑戦したり、表現したりすることができる。
○与えられたルールを概ね理解し、教師や仲間による見本や練習方法をもとに、体力の高め方を理解する。

○教師や仲間の助言があれば、自己の状況に応じた練習方法を実践することができる。
○学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を教師等の個別の解説や助言によって理解し、自分なりの考えを持つことができる。

○各種目の決められたルールやマナーを守るだけでなく、教師からの助言があれば相手や仲間を尊重するなどのフェアなプレイに取り組む様子がみられる。
○教師からの助言があれば、怪我等を回避するための、運動量や、とるべき行動を認識し、健康・安全に努める。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「新高等保健体育」 （大修館書店）

副教材 「ステップアップ高校スポーツ」 （大修館書店）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 選択① 球技（バレーボール・バスケットボール・ハンドボール・テニス・卓球・サッカー・バドミントン・ソフトボール）・武道
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・体育理論 選択② 球技（バレーボール・バスケットボール・ハンドボール・テニス・卓球・サッカー・バドミントン・ソフトボール）・武道 ・持久走
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・持久走 選択③ 球技（バレーボール・バスケットボール・ハンドボール・テニス・卓球・サッカー・バドミントン・ソフトボール）・武道

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業を大切にして、教師や仲間のアドバイスを聞いて、技能を高める習慣を身につけるようにする。
- ・実技教科のため、欠席をせずに、課題に粘り強く取り組む。
- ・仲間と協力して、練習やゲーム、発表会に取り組む。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> ・スキルテスト ・ルールテスト ・体育理論テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシート、感想
重みづけ	2	:	1
	実技教科のため、基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」を重視して成績をつけます。		

目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。

- (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
 ジャンプ	○思春期から高齢期までを健康に過ごすための健康課題について個人、またはグループで課題を設定し考察することで理解を深めることができる。 ○様々な環境問題、食品衛生、医薬品の分類と使用法、保健・医療サービス制度、健康課題に対応した各種の保健活動や社会的対策について個人、またはグループで課題を設定し考察することで理解を深めることができる。	○思春期から高齢期までを健康に過ごすための健康課題について課題を発見し、健康に過ごすための方法を、自ら思考し判断するとともに、それらを表現することができる。 ○様々な環境問題、食品衛生、医薬品の分類と使用法、保健・医療サービス制度、健康課題に対応した各種の保健活動や社会的対策について理解し、自分の考えを持つことができる。	○生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組むことができている。 ○健康を支える環境づくりについての学習に主体的に取り組むことができている。
 ステップ	○思春期から高齢期までを健康に過ごすための健康課題について理解することができる。 ○様々な環境問題、食品衛生、医薬品の分類と使用法、保健・医療サービス制度、健康課題に対応した各種の保健活動や社会的対策について理解することができる。	○思春期から高齢期までを健康に過ごすための健康課題について課題を発見し、健康に過ごすための方法を、最小限の助言によって、思考し判断するとともに、それらを表現することができる。 ○様々な環境問題、食品衛生、医薬品の分類と使用法、保健・医療サービス制度、健康課題に対応した各種の保健活動や社会的対策について教師の解説や助言により理解し、自分なりの考えを持つことができる。	○生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。 ○健康を支える環境づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。

ホップ

	<p>○思春期から高齢期までを健康に過ごすための健康課題について教師の解説や助言により理解することができる。</p> <p>○様々な環境問題、食品衛生、医薬品の分類と使用法、保健・医療サービス制度、健康課題に対応した各種の保健活動や社会的対策について教師の解説や助言により理解することができる。</p>	<p>○思春期から高齢期までを健康に過ごすための健康課題について課題を発見し、健康に過ごすための方法を、教師等の助言があれば、思考し判断するとともに、それらを表現することができる。</p> <p>○様々な環境問題、食品衛生、医薬品の分類と使用法、保健・医療サービス制度、健康課題に対応した各種の保健活動や社会的対策について教師の解説や助言により理解し、自分なりの考えを持つことができる。</p>	<p>○生涯を通じる健康についての学習に教師からの助言があれば、取り組もうとしている。</p> <p>○健康を支える環境づくりについての学習に教師からの助言があれば、取り組もうとしている。</p>
--	---	---	--

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

- 教科書 「新高等保健体育」（大修館書店）
 副教材 「新高等保健体育ノート」（大修館書店）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

		単元名・学習内容	
		第3章 生涯を通じる健康	
1 学期	① 思春期と健康	⑤ 家族計画	
	② 性意識の変化と性行動の選択	⑥ 加齢と健康	
	③ 結婚生活と健康	⑦ 高齢社会に対応した取り組み	
	④ 妊娠・出産と健康		
		第3章 生涯を通じる健康	第4章 健康を支える環境づくり
2 学期	⑧ 働くことと健康	③ 健康被害を防ぐための環境対策	
	⑨ 労働災害の防止	④ 環境衛生に関わる活動	
	⑩ 働く人の健康づくり	⑤ 食品の安全性と健康	
	① 大気汚染と健康	⑥ 食品の安全性を確保する取り組み	
	② 水質汚濁・土壌汚染と健康		
		第4章 健康を支える環境づくり	
3 学期	⑦ 保健制度とその活用	⑩ 様々な保健活動や対策	
	⑧ 医療制度とその活用	⑪ 誰もが健康に過ごせる社会にむけた環境づくり	
	⑨ 医薬品の制度とその活用		

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・実生活に結びつけて、それぞれのテーマを学習する。
- ・グループ学習等を通して、他者とのコミュニケーションを図り、知識を定着させる。
- ・ワークシートやノートを活用して、用語の理解や発問に対して答えられるようにする。
- ・教師のアドバイスを聞いて、課題に粘り強く取り組む。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業における発表や成果物 ・ノート ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシート、感想 ・ノート ・定期考査
重みづけ	2	:	1
	保健の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」を重視して成績をつけます。		

目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考え方などを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。**(知識・技能)**
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。**(思考・判断・表現)**
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。**(学びに向かう力・人間性等)**

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
成長のプロセス	ジャンプ	○教科書で扱われる英単語や文法事項について理解を深めている。 ○教科書で扱われる英単語や文法事項等の知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる。	○外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
	ステップ	○教科書で扱われる英単語や文法事項を理解している。 ○教科書で扱われる英単語や文法事項等の知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、活用できる技能を身に付けている。	○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる。	○外国語の背景にある文化を理解し、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
	ホップ	○教科書で扱われる英単語や文法事項について教師等の助力があればおおむね理解できる。 ○教科書で扱われる英単語や文法事項等の知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、教師等の助力があればおおむね活用できる。	○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを教師等の助力があればおおむね理解したり、伝えたりすることができる。	○外国語の背景にある文化に興味を持ち、英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「All Aboard! English Communication I」 東京書籍

副教材 「All Aboard! English Communication I ワークブック」 東京書籍

「ビッグ・ディッパー高校英語」数研出版、「クラウン チャンクで英単語 Basic」三省堂

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	<p>Lesson 6 A Funny Picture from the Edo Period 奇想天外な浮世絵師</p> <ul style="list-style-type: none"> 受け身：〈be 動詞＋過去分詞〉 江戸時代の浮世絵師、歌川国芳についてのスピーチを通して浮世絵と現代マンガの関連性について考える。 <p>Lesson 7 A Diary of Hope アンネ・フランク</p> <ul style="list-style-type: none"> 比較表現：〈-er〉〈the -est〉〈as＋原級＋as〉 アンネ・フランクの生活と日記について紹介する授業を通して、生きることの意味について考える。
2 学期	<p>Lesson 8 A Door to a New Life ロボットカフェ</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在完了形：〈have[has]＋過去分詞〉 ロボットカフェを紹介する実況中継を通して、ロボットの可能性について考える。 <p>Lesson 9 Fighting Plastic Pollution 海の豊かさを守る</p> <ul style="list-style-type: none"> 名詞を後ろから説明する分詞 プラスチックごみによる環境汚染と戦うインドネシアの姉妹の活動を学習する。
3 学期	<p>Lesson 10 Pigs from across the Sea 海の向こうからの贈り物</p> <ul style="list-style-type: none"> 関係代名詞：who, which 第二次世界大戦によって疲弊した沖縄とハワイ在住の沖縄出身日系アメリカ人からの援助や、両地域の現在の交流について学習する。

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- 予習として、教科書を読んでわからないところを見つけておく。
- 自分の課題やできるようになりたいことを意識しながら授業に臨み、授業で何がわかったか、できるようになったかを振り返る習慣をつける。
- 板書を写し取るだけでなく、自分の考えや疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、復習に役立つような工夫したノートづくりをする。
- 提出物は丁寧に仕上げ、期限を守って提出する。
- 英語で日記をつける、英語の歌を覚えて歌う、興味のある分野について英語の記事を読む等、授業以外でも英語を使う機会を作ってみる。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 レポート 授業における発表や成果物 ノート 長期休業中の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ノート 振り返りシート、感想 レポート 長期休業中の課題
重みづけ	2	2	1
	英語の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得と表現力の向上を図るために、「知識・技能」「思考・判断・表現」を重視して成績をつけます。		

目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。(知識及び技術)
- (2) 農業に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な知識や技術を深く理解し、人に教えたり説明したりできる。 ○実習で得た知識や技術を異なる場面でも応用できる。 ○授業で学んだことを、他の情報を含め、総合的に検証し、理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師による助言がほぼなくても自分自身の判断で取り組むことができる。 ○実施記録簿を多角的な思考や判断で、求められているレベルを越えて記録することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のやるべきことを自ら発見し、進んでやりきることができる。 ○創意工夫しながら学ぼうとする姿勢をもつことができる。
ステップ	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な知識や技術を反復によって修得し、作業に生かすことができる。 ○授業で学んだことを、過去の授業と関連付けて理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師による助言が最小限でも自分なりに取り組むことができる。 ○実施記録簿に求められているレベルまで十分に記録することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のやるべきことをやりきることができる。 ○自分の学びを振り返り、学びを向上させることができる。
ホップ	<ul style="list-style-type: none"> ○最低限必要な知識や技術を覚えたり作業することができる。 ○授業で学んだことを理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師による助言を元に概ね取り組むことができる。 ○実施記録簿に求められているレベルまで概ね記録することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のやるべきことをやりきろうとする。 ○自分の学びを振り返りながら学び続けようとする。

成長のプロセス

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 なし
副教材 なし

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	<p>単元名 課題研究(2-1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市園芸コース(果樹・野菜・草花)および環境土木コースの専攻にわかれて行う。教材は生徒の興味・関心等や時期に応じた内容を取り扱う。 ・研究テーマ(課題)の設定および計画の作成と実施
2 学期	<p>単元名 課題研究(2-2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市園芸コース(果樹・野菜・草花)および環境土木コースの専攻にわかれて行う。教材は生徒の興味・関心等や時期に応じた内容を取り扱う。 ・研究の実施
3 学期	<p>単元名 課題研究(2-1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市園芸コース(果樹・野菜・草花)および環境土木コースの専攻にわかれて行う。教材は生徒の興味・関心等や時期に応じた内容を取り扱う。 ・研究の実施とまとめ、反省と今後の課題

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・実習服を着用し、安全第一に行う。
- ・個人又はグループが研究テーマ(課題)を設定し、各自の計画に基づいて調査・研究、実験・実習等をおこなう。
- ・実施記録簿(研究テーマ、本日の目標、研究内容、観察・調査事項、反省・感想、自己評価等)を毎回ていねいに仕上げ、期限を守って提出する。その際、データの記録・処理・分析をおろそかにしないようにする。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> ・実験・実習 ・実施記録簿 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験・実習 ・実施記録簿 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究における態度 ・実施記録簿
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野の改善を図る実践的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
(知識及び技術)
- (2) 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な知識や技術を深く理解し、人に教えたり説明したりできる。 ○実習で得た知識や技術を異なる場面でも応用できる。 ○授業で学んだことを、他の情報を含め、総合的に検証し、理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師による助言がほぼなくても自分自身の判断で取り組むことができる。 ○ノートやファイルを多角的な思考や判断で、求められているレベルを越えて記録することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のやるべきことを自ら発見し、進んでやりきることができる。 ○創意工夫しながら学ぼうとする姿勢をもつことができる。
ステップ	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な知識や技術を反復によって修得し、作業に生かすことができる。 ○授業で学んだことを、過去の授業と関連付けて理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師による助言が最小限でも自分なりに取り組むことができる。 ○ノートやファイルに求められているレベルまで十分に記録をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のやるべきことをやりきることができる。 ○自分の学びを振り返り、学びを向上させることができる。
ホップ	<ul style="list-style-type: none"> ○最低限必要な知識や技術を覚えたり作業することができる。 ○授業で学んだことを理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師による助言を元に概ね取り組むことができる。 ○ノートやファイルに求められているレベルまで概ね記録することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のやるべきことをやりきろうとする。 ○自分の学びを振り返りながら学び続けようとする。

成長のプロセス

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 なし
副教材 なし

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	<p>単元名 総合実習(2-1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市園芸コース(果樹・野菜・草花)および環境土木コースの専攻にわかれて学習する。教材は時期に応じた内容を取り扱う。 ・農業鑑定
2 学期	<p>単元名 総合実習(2-2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市園芸コース(果樹・野菜・草花)および環境土木コースの専攻にわかれて学習する。教材は時期に応じた内容を取り扱う。 ・農業鑑定
3 学期	<p>単元名 総合実習(2-3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市園芸コース(果樹・野菜・草花)および環境土木コースの専攻にわかれて学習する。教材は時期に応じた内容を取り扱う。 ・農業鑑定

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・実習服を着用し、安全第一に実習する。
- ・総合実習は時間割内総合実習(4単位)と時間割外総合実習(2単位)に分けて実施する。
- ・時間割外総合実習は平日の当番と夏・春休みの当番からなり、別途当番表により配当される。
- ・主体的に農場において実習し、知識・技術を身に付け、思考・判断・表現することができるようにする。
- ・時間割内総合実習では実習ファイルを毎回ていねいに仕上げ提出する。
- ・農業鑑定に関するテストを学期末ごとに行うので、課題をていねいに仕上げ提出する。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> ・実習・実技 ・農業鑑定テスト ・実習ファイル 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習・実技 ・農業鑑定テスト ・実習ファイル 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合実習における態度 ・農業鑑定課題 ・実習ファイル
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業に関する情報を主体的に活用するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。(知識及び技術)
- (2) 農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用ができるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ○情報社会における問題や課題を正しく理解し、その解決策を自分なりに工夫することができる。 ○情報セキュリティの確保に向けて、目的に応じた適切な方法を選択することができる。 ○自分の意見や考えを、情報機器を活用して視覚的にわかりやすく伝えることができる。 ○問題解決の手順を論理的に考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報社会に主体的に参画しようとしている。 ○情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しようとしている。 ○よりよいコミュニケーションを行うために、自らの取り組みを評価・改善できる。 ○問題解決に情報機器を積極的に活用し、自ら結果を振り返って改善しようとしている。
	ステップ	<ul style="list-style-type: none"> ○情報社会と人間との関わりについて考え、情報と情報技術の活用の意義を理解している。 ○情報に関する法規や制度、情報セキュリティとは何か、どのようなものであるかを理解している。 ○情報デザインの考え方について、十分に理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報社会における問題の発見・解決に、情報と情報技術を適切に活用している。 ○情報モラルに配慮して、よりよいコミュニケーションを行おうとしている。 ○情報伝達のために、コンテンツ制作の個人技術を高めようとしている。
	ホップ	<ul style="list-style-type: none"> ○情報化が進展する社会の特質について説明することができる。 ○情報に関する法規や制度、情報セキュリティなどの基本的なものを暗記している。 ○身近で具体的な情報デザインの例を基に、情報機器を操作する技術を身につけている。 ○関数の定義・使用により、プログラムの構造を整理する技術を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報の特性を活用した事例と、それによって生じる事例を挙げるができる。 ○情報セキュリティの脅威に対する対策について、説明することができる。 ○報告者やレポートの目的に対して、体裁を考え、わかりやすい資料を作成し報告できる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 農業と情報(実教出版)

副教材 全商情報処理検定模擬試験問題集 3 級(実教出版)

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容		
1 学期	第 4 章 スマート農業への展望 1 スマート農業のめざす将来 2 システム開発と設計 3 プログラムの設計 4 計測と制御	第 3 章 コミュニケーションと情報デザイン 4 データベースシステムとオープンデータ 5 画像・図形処理ソフトウェアの利用
2 学期	5 リモートセンシングと GIS 6 人工知能 第 5 章 農業情報の分析と活用 1 農業情報の収集と分析 2 農業生産や経営情報の分析と活用	6 プレゼンテーション 7 情報発信
3 学期	3 環境に関する情報の分析と活用 4 食品や地域資源に関する情報の分析と活用 第 6 章 農業学習と情報活用 1 農業学習とプロジェクト学習 2 プロジェクト発表と情報発信 3 データの視覚化と分析	8 問題解決の方法

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ソフトウェアやインターネットなどを活用して、問題や課題と向き合う。
- ・情報機器の仕組みを理解して積極的に活用し、生活の中で利用できる操作や技術を身につける。
- ・仲間やグループで話し合いや意見交換を行い、自身の考えと他者の考えを比較・検討する態度を持つ。
- ・新聞やインターネットなどのメディアに積極的にふれ、社会事象に興味・関心を持つ。
- ・日常生活において、個人情報やセキュリティに対して注意深く考える習慣を持つ。
- ・色々な場面の小さなことでも、創造力を生かした発想や論理的に物事を考える習慣を大切にする。
- ・提出物は丁寧に仕上げ、提出期限を守る。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 ・機器操作のテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・学習ノート 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート ・機器操作への取り組み
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、野菜の生産と経営に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 野菜の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。(知識及び技術)

(2) 野菜の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力等)

(3) 野菜の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な知識や技術を深く理解し、人に教えたり説明したりできる。 ○実習で得た知識や技術を異なる場面でも応用できる。 ○授業で学んだことを、他の情報を含め、総合的に検証し、理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師による助言がほぼなくても自分自身の判断で取り組むことができる。 ○ノートやファイルを多角的な思考や判断で、求められているレベルを越えて記録することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のやるべきことを自ら発見し、進んでやりきることができる。 ○創意工夫しながら学ぼうとする姿勢をもつことができる。
ステップ	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な知識や技術を反復によって修得し、作業に生かすことができる。 ○授業で学んだことを、過去の授業と関連付けて理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師による助言が最小限でも自分なりに取り組むことができる。 ○ノートやファイルに求められているレベルまで十分に記録をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のやるべきことをやりきることができる。 ○自分の学びを振り返り、学びを向上させることができる。
ホップ	<ul style="list-style-type: none"> ○最低限必要な知識や技術を覚えたり作業することができる。 ○授業で学んだことを理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師による助言を元に概ね取り組むことができる。 ○ノートやファイルに求められているレベルまで概ね記録することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のやるべきことをやりきろうとする。 ○自分の学びを振り返りながら学び続けようとする。

成長のプロセス

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「野菜」（実教出版）
副教材 なし

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	第1章 野菜生産の役割と動向 1 野菜の種類と特徴 2 野菜の消費 3 野菜の生産と供給 4 野菜の安全性
2 学期	第2章 野菜の生育と栽培環境の調節技術 1 野菜の生育と生理 2 野菜の栽培環境と生育調節 3 人工環境における栽培技術
3 学期	第3章 野菜の育苗 1 育苗の目的と方法 2 育苗技術の実際と応用

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業を大切にし、わからないところはそのままにせず質問するなどして理解に努める。
- ・ノートは黒板を写すだけでなく、自分なりに工夫をする。またプリントはノートに貼るなどしてあとから見やすいようにし、整理力を身に付ける。
- ・実習では全員で協力して取り組む。また安全上、実習服・長靴を正しく着用し、機械や道具を使用する際は指導者の指示に従い正しく使用する。
- ・提出物は丁寧に仕上げ、提出期限を守る。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・学習ノート 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目 標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、果実の生産と経営に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 果実の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。(知識及び技術)
- (2) 果実の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 果実の生産と経営について生産性や本質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
成長のプロセス	ジャンプ ▲	<ul style="list-style-type: none"> ○学んだ知識を、これまでに学習してきた知識や技術と関連させて、新たな気づきや「問い」を得ることができる。 ○学んだ知識や技術を活かして、果樹の新しい栽培方法について実践できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○現在の果樹栽培における課題について考え、新しいアイデアも用いた栽培方法について考察できる。 ○効果的な果樹栽培の方法について深い議論や討論ができる。 ○環境の変化に応じた効果的な果樹の栽培方法について工夫できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○果樹栽培に興味関心を持ち、自ら実践し(プロジェクト学習)、課題について解決しようと創意工夫しながら取り組もうとする。 ○果樹栽培において、常に創意工夫をしながら取り組もうとすることができる。
	ステップ ▲	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な果樹栽培に関する知識を修得しており、人に教えたり、説明することができる。 ○学習で得た知識や技術を、実習の場面で応用して活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○果樹栽培の課題について、話し合いや議論を行うことができる。 ○会得した栽培技術を用いて、より効果的な栽培方法について検討することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○果樹栽培の目標達成に近づく方策と現在の課題について漠然とではあるが理解している。 ○指示されたことについては、教師の支援がなくとも、最後まで適切にやり抜くことができる。
	ホップ ▲	<ul style="list-style-type: none"> ○果樹栽培に関する実習において、指示された行動が適切に行うことができる。 ○学習や実習によって得た知識や技能を、暗記や反復によって覚えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○果樹の実習において、教師のアシストを得ながら、適切な栽培管理を行うことができる。 ○果樹栽培に必要な知識や技術の基礎基本について理解している。 ○教師による発問や助言があれば、果樹栽培における課題についても多少の考察ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○指示されたことに、教師等の助言を受けることで取り組むことができる。 ○与えられた果樹栽培に関する課題に対しても、アイデアを出そうと努力することができる。

■ 何によって学ぶのか(使用教材)

教科書 「果樹」 (実教出版)

■いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容		
1 学期	第1章 果樹の種類と果樹栽培の動向 1 果樹の種類と果実の利用 2 果樹栽培の動向 第2章 果実の生育と栽培環境 1 果実の生育と生理	第12章 高校生による実践活動 ・果実生産と経営に関するプロジェクト学習の意義 ・プロジェクト学習の進め方
2 学期	2 果樹栽培と環境 第3章 果樹の栽培管理 1 苗木の育成 2 開園と更新 3 土壌管理 4 栄養と施肥 5 水分管理	6 結実管理 7 結果調節 第12章 高校生による実践活動 ・果実生産と経営に関するプロジェクト学習の意義 ・プロジェクト学習の進め方
3 学期	8 結果習性と整枝・せん定 9 気象災害の防止 10 病害虫の防除 11 食物成長調整剤の利用 12 施設栽培と特殊栽培	第12章 高校生による実践活動 ・果実生産と経営に関するプロジェクト学習の意義 ・プロジェクト学習の進め方

■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ノートは丁寧に記入する。板書以外の口頭で説明した部分も自分なりに工夫をして記入をする。
- ・挙手して発表することで、自身の意識を授業に向ける努力をする。
- ・配布した資料・プリント類はノートに貼るなどして、見直しの活用や紛失を防ぐようにする。
- ・自身の身体を「食」によって保たれていることを再認識し、果樹の適切な利用方法を考える。
- ・教科内実習では、指定された正しい服装を着用し、安全に留意して真剣に取り組む。
- ・受け身にならず、自分の考えたことをはっきりと発表する。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・定期考査 ・小テスト	・定期考査 ・レポート（宿題・課題）	・学習ノート ・レポート（宿題・課題） ・授業における発表や成果物
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目標

草花の栽培と経営に必要な知識と技術を習得し、草花の特性や栽培に適した環境を理解するとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を身に付ける。

- (1) 草花の特性や栽培・経営などの知識を身につけ、草花の役割や栽培技術、品質保持技術などとの関わりを理解し、草花の栽培に必要な基本的な技術を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 草花の生理・生態的特性を考察し、それに適した栽培技術や環境を判断する力を養う。また、草花生産の動向や問題を判断し、それに適した栽培施設や栽培計画を考察する力を養う。
(思考力、判断力、表現力)
- (3) 草花の育成や草花の社会的な役割など草花と農業学習に興味・関心をたかめ、草花について自ら知識・技術を取り入れようとする意欲的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
成長の プロセス	ジャンプ	○草花の役割や栽培技術、品質保持術などとの関わりについて理解し、実習と関連付けて知識を活かすことができる。 ○草花栽培の基本的な技術を身に付け、教員の助言がほぼなくても作業ができ、人に教えることができる。	○草花の生理・生態的特性を考察し、それに適した栽培技術や環境を考え、栽培施設や栽培計画を考察し、品質と生産性の向上を図ることができる。 ○実習において学習したことを表現し、さらに自分なりの工夫をすることができる。	○草花の生育や草花の社会的な役割など草花に興味・関心を持ち、草花について知識・技術を意欲的に取り入れ、創意工夫しながら取り組もうとする。 ○与えられた課題に対して、主体的に取り組む、やり遂げることができる。
	ステップ	○草花の役割や栽培技術、品質保持術などとの関わりについて理解できる。 ○草花栽培の基本的な技術を身に付け、教員の助言がなくても概ね作業ができる。	○教師の最小限の助言により、草花生産の動向や問題を判断し、それに適した栽培施設や栽培計画を考察することができる。 ○実習において学習したことを教師の最小限の助言によって概ね表現することができる。	○草花の生育や草花の社会的な役割など草花に興味・関心を持ち、草花について知識・技術を積極的に取り入れようとする。 ○与えられた課題に対して、期限までにやり遂げることができる。
	ホップ	○草花の役割や栽培技術、品質保持術などとの関わりについて、教師による解説や助言等により概ね理解できる。 ○草花の栽培に必要な基本的な技術を身に付けようとする。	○教師の助言により草花の生理・生態的特性を考察し、それに適した栽培技術や環境を概ね考えることができる。 ○実習において学習したことを教師の助言をもらいながら概ね表現することができる。	○草花の生育や草花の社会的な役割など草花に興味・関心を持ち、草花について知識・技術を取り入れようとする。 ○与えられた課題に対して、教師の助言によって期限までにやり遂げようと努力できる。

■ 何によって学ぶのか(使用教材)

教科書 「草花」 (実教出版)
副教材 なし

■いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	第1章 草花生産と消費の動向 1 草花園芸の特徴 2 草花生産と消費の動向
2 学期	第2章 生活と草花の利用 1 草花の多面的利用 2 園芸デザイン 第3章 草花の特徴と栽培技術 1 草花の生育と環境
3 学期	2 品種改良と繁殖 3 草花の生育と栽培技術 4 生産施設と栽培環境の調節

■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業や実習に積極的に参加し、わからないことはその都度質問し、理解に努める。
- ・ノートは丁寧に記入することを心掛け、後から見てもわかるよう、自分なりに工夫して記入する。
- ・授業で配布されたプリント類はノートに貼るなどして紛失を防ぐとともに整理・整頓する習慣を身に付ける。
- ・実習は実習服等、指定された服装を正しく着用し、安全に留意して指導者の指示に従い事故や怪我のないようにする。
- ・提出物は期限を必ず守る。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習ノート ・レポート ・授業・実習の取り組み ・授業における発表や成果物
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業土木事業の計画と設計に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 農業土木設計について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。(知識及び技術)
- (2) 農業土木設計に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 農業土木設計について農業土木事業が自然環境との調和へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
成長のプロセス	ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ○十分に数理的に考察する力をつけている。 ○応用問題の解法を自分の言葉で表現し、説明できる。 ○自ら問題を解決するための実験内容を考え、見通しを立てて実験、考察を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 ○応用問題に積極的に取り組む姿勢を持つ。 ○友人と協働し、試行錯誤を繰り返しながら、問題解決に向けて取り組むことができる。 	
	ステップ	<ul style="list-style-type: none"> ○水や土の性質について理解し、基本的な水圧や土圧など設計に関連する計算ができる。 ○実験器具の名称や基本操作について理解し、正確な実験結果を得ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○おおよその数理的に考察する力をつけている。 ○基本問題の解法を自分の言葉で表現し、説明できる。 ○教師の助言により、実験内容を考え、見通しを立てて実験、考察を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書で学んだ範囲に対し、復習を行っている。 ○板書だけでなく、教師の説明をメモするなど自分のノートを作る。 ○試行錯誤を繰り返しながら、問題解決に向けて取り組むことができる。
	ホップ	<ul style="list-style-type: none"> ○農業土木事業に関連する用語や設計に必要な公式を理解し、教師の説明を受けたり、例題を参考にしながら練習問題に取り組む。 ○実験器具の名称や基本操作について理解し、教師の助言のもとで実験ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○公式に含まれる記号の意味を理解し、答えを導き出そうと努める。 ○教師の助言のもとで基本問題の解法を自分の言葉で説明できる。 ○教師の助言や友人と協力して実験、考察を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ノートやプリントの整理ができる。 ○提出物や課題等を期日までにやり遂げる。 ○振り返りを大切にし、改善すべき点について考えようとする。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「農業土木設計」 （文部科学省）
副教材 「水循環」 （文部科学省）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	<p>【「農業土木設計」とプロジェクト学習】</p> <p>ア 農業土木設計に関するプロジェクト学習の意義</p> <p>【農業土木事業の計画と設計】</p> <p>ア 農業土木事業の意義と役割</p> <p>イ 農業土木事業の計画</p> <p>ウ 農業土木構造物の設計</p>
2 学期	<p>【水と土の性質】</p> <p>ア 水の基本的性質</p>
3 学期	<p>【水と土の性質】</p> <p>イ 土の基本的性質</p> <p>ウ 土中の水</p>

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業を大切にし、わからないところはそのままにせず教員や友人に質問するなどして理解に努める。
- ・ノートは黒板を写すだけでなく、自分なりに工夫をする。
- ・プリントはノートに貼るなど、後から見やすいように整理しておく。
- ・提出物は丁寧に仕上げ、期限を守る。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・単元毎テスト（実技テスト含む） 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業における発表や成果物 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・振り返りシート、感想 ・実験実習レポート
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業土木事業における施工と管理に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 農業土木施工について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 農業土木施工に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 農業土木施工について自然環境や安全に配慮し、合理的な施工・管理ができるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長の プロセス	<p>ジャンプ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○農業土木施工と環境や生物との関わり、土木資源の確保などを総合的に理解し、地域農業に応用しようとする。 ○施工器具、機械の名称や基本操作について理解し、正確な実験結果を得るために創意工夫ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○農業土木施工のあるべき姿と、それに対する現状の認識から問題点を見つけ、解決策を考えることができる。 ○応用問題の解法を自分の言葉で表現し、説明できる。 ○自ら問題を解決するための実験内容を考え、見通しを立てて実験、考察を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 ○応用問題に積極的に取り組む姿勢を持つ。 ○友人と協働し、試行錯誤を繰り返しながら、問題解決に向けて取り組むことができる。
	<p>ステップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○農業土木施工と環境や生物との関わり、土木資源の確保などを総合的に理解し、地域農業に興味・関心を持つ。 ○施工器具、機械の名称や基本操作について理解し、正確な実験結果を得ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○農業土木施工のあるべき姿と、それに対する現状の認識から問題点を見つけることができる。 ○基本問題の解法を自分の言葉で表現し、説明できる。 ○教師の助言により、実験内容を考え、見通しを立てて実験、考察を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書で学んだ範囲に対し、復習を行っている。 ○板書だけでなく、教師の説明をメモするなど自分のノートを作る。 ○試行錯誤を繰り返しながら、問題解決に向けて取り組むことができる。
	<p>ホップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○農業土木施工と環境や生物との関わり、土木資源の確保などを総合的に理解している。 ○施工器具、機械の名称や基本操作について理解し、教師の助言のもとで実験ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○農業土木施工のあるべき姿と、それに対する現状の認識から問題点を見つけ出そうと努力する。 ○教師の助言のもとで基本問題の解法を自分の言葉で説明できる。 ○教師の助言や友人と協力して実験、考察を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ノートやプリントの整理ができる。 ○提出物や課題等を期日までにやり遂げる。 ○振り返りを大切にし、改善すべき点について考えようとする。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 農業土木施工（東京電気大学出版）
副教材

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	(1)「農業土木施工」とプロジェクト学習 ア. 農業土木施工に関するプロジェクト学習の意義 イ. プロジェクト学習の進め方 (2) 施工計画の基本 ア. 施工計画の立案 イ. 仮設計画 ウ. 仕様と積算
2 学期	(5) 農業土木工事の施工 ア. 土木材料 イ. 土工 ウ. コンクリート工 (6) 農業土木施工の実践
3 学期	(5) 農業土木工事の施工 エ. 鉄筋コンクリート工 オ. 基礎工 (6) 農業土木施工の実践

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・講義や実習などを活用して、問題や課題と向き合う。
- ・授業を大切に、粘り強く学習することを心がける。
- ・仲間やグループで話し合いや意見交換を行い、自身の考えと他者の考えを比較・検討する態度を持つ。
- ・農業土木施工に関する小さなことでも、創造力を生かした発想や論理的に物事を考える習慣を大切にする。
- ・提出物は丁寧に仕上げ、提出期限を守る。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査 ・単元毎テスト （実技テスト含む）	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・学習ノート	・学習ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、循環する水を有効に活用するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 水循環について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。(知識及び技術)
- (2) 水循環に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 水循環について環境保全や農業の持続的な発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
成長のプロセス	△ ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ○水循環と環境や生物との関わり、水資源の確保など水を総合的に理解し、地域農業に応用しようとする。 ○実験器具の名称や基本操作について理解し、正確な実験結果を得るために創意工夫ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の水循環系のあるべき姿と、それに対する現状の認識から問題点を見つけ、解決策を考えることができる。 ○応用問題の解法を自分の言葉で表現し、説明できる。 ○自ら問題を解決するための実験内容を考え、見通しを立てて実験、考察を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 ○応用問題に積極的に取り組む姿勢を持つ。 ○友人と協働し、試行錯誤を繰り返しながら、問題解決に向けて取り組むことができる。
	△ ステップ	<ul style="list-style-type: none"> ○水循環と環境や生物との関わり、水資源の確保など水を総合的に理解し、地域農業に興味・関心を持つ。 ○実験器具の名称や基本操作について理解し、正確な実験結果を得ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の水循環系のあるべき姿と、それに対する現状の認識から問題点を見つけることができる。 ○基本問題の解法を自分の言葉で表現し、説明できる。 ○教師の助言により、実験内容を考え、見通しを立てて実験、考察を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書で学んだ範囲に対し、復習を行っている。 ○板書だけでなく、教師の説明をメモするなど自分のノートを作る。 ○試行錯誤を繰り返しながら、問題解決に向けて取り組むことができる。
	△ ホップ	<ul style="list-style-type: none"> ○水循環と環境や生物との関わり、水資源の確保など水を総合的に理解している。 ○実験器具の名称や基本操作について理解し、教師の助言のもとで実験ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の水循環系のあるべき姿と、それに対する現状の認識から問題点を見つけ出そうと努める。 ○教師の助言のもとで基本問題の解法を自分の言葉で説明できる。 ○教師の助言や友人と協力して実験、考察を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ノートやプリントの整理ができる。 ○提出物や課題等を期日までにやり遂げる。 ○振り返りを大切にし、改善すべき点について考えようとする。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「水循環」 （文部科学省）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	<p>【「水循環」とプロジェクト学習】</p> <p>ア 水循環に関するプロジェクト学習の意義</p> <p>イ プロジェクト学習の進め方</p> <p>【水と地球環境】</p> <p>ア 水と大気</p> <p>イ 水文循環</p>
2 学期	<p>【水と地球環境】</p> <p>ウ 水と森林・河川・農地</p> <p>エ 水と生態系・学習する内容等</p>
3 学期	<p>【水と生活環境】</p> <p>ア 水と人間の歴史</p> <p>イ 資源としての水</p> <p>ウ 水の有効利用と水質保全</p>

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業を大切にし、わからないところはそのままにせず教員や友人に質問するなどして理解に努める。
- ・ノートは黒板を写すだけではなく、自分なりに工夫をする。
- ・プリントはノートに貼るなど、後から見やすいように整理しておく。
- ・提出物は丁寧に仕上げ、期限を守る。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・単元毎テスト （実技テスト含む） 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業における発表や成果物 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・振り返りシート、感想 ・実験実習レポート
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、測量に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 測量について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
(知識及び技能)
- (2) 測量に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 測量について国土保全や環境創造に応用できるよう自ら学び、土木の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長の プロセス	<p>ジャンプ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○測量に関する基本的な概念や総合的な把握の仕方を習得し、各種建設工事における測量の意義や役割を理解し、地域における測量に応用しようとする。 ○各種建設工事に用いられる測量に関する基礎的・基本的な知識・技術を習得するとともに、創意くふうして測量技術を探求する方法を習得できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○測量のあるべき姿と、それに対する現状の認識から問題点を見つけ、解決策を考えることができる。 ○応用問題の解法を自分の言葉で表現し、説明できる。 ○自ら問題を解決するための実験内容を考え、見通しを立てて実験、考察を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 ○応用問題に積極的に取り組む姿勢を持つ。 ○友人と協働し、試行錯誤を繰り返しながら、問題解決に向けて取り組むことができる。
	<p>ステップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○測量に関する基本的な概念や総合的な把握の仕方を習得し、各種建設工事における測量の意義や役割を理解し、地域における測量に興味・関心を持つ。 ○各種建設工事に用いられる測量に関する基礎的・基本的な知識・技術を習得するとともに、創意くふうして測量技術を探求する方法を理解できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○測量のあるべき姿と、それに対する現状の認識から問題点を見つけることができる。 ○基本問題の解法を自分の言葉で表現し、説明できる。 ○教師の助言により、実験内容を考え、見通しを立てて実験、考察を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書で学んだ範囲に対し、復習を行っている。 ○板書だけでなく、教師の説明をメモするなど自分のノートを作る。 ○試行錯誤を繰り返しながら、問題解決に向けて取り組むことができる。
	<p>ホップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○測量に関する基本的な概念や総合的な把握の仕方を習得し、各種建設工事における測量の意義や役割を理解している。 ○各種建設工事に用いられる測量に関する基礎的・基本的な知識・技術を習得する 	<ul style="list-style-type: none"> ○測量のあるべき姿と、それに対する現状の認識から問題点を見つけ出そうと努力する。 ○教師の助言のもとで基本問題の解法を自分の言葉で説明できる。 ○教師の助言や友人と協力して実験、考察を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ノートやプリントの整理ができる。 ○提出物や課題等を期日までにやり遂げる。 ○振り返りを大切にし、改善すべき点について考えようとする。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 測量（実教出版）
副教材

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	（４）地理空間情報 ア. 写真測量の原理 イ. 写真測量の利用 ウ. リモートセンシングの原理と種類 エ. リモートセンシングの利用
2 学期	（４）地理空間情報 オ. 地理情報システムの原理と役割 カ. 地理情報システムの利用
3 学期	（５）測量の実践 ウ. 工事測量 エ. 河川測量 オ. 森林測量

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・講義や実習などを活用して、問題や課題と向き合う。
- ・授業を大切にして、粘り強く学習することを心がける。
- ・仲間やグループで話し合いや意見交換を行い、自身の考えと他者の考えを比較・検討する態度を持つ。
- ・測量に関する小さなことでも、創造力を生かした発想や論理的に物事を考える習慣を大切にする。
- ・提出物は丁寧に仕上げ、提出期限を守る。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査 ・単元毎テスト （実技テスト含む）	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・学習ノート	・学習ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目 標

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会基盤の整備に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会基盤の整備について自然環境との調和及び防災を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする（**知識及び技能**）
- (2) 社会基盤の整備に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。（**思考力、判断力、表現力**）
- (3) 安全で安心な社会基盤を整備する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。（**学びに向かう力・人間性等**）

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
成長のプロセス	ジ ャ ン プ	<ul style="list-style-type: none"> ○社会基盤工学と環境や生物との関わり、土木資源の確保などを総合的に理解し、地域社会基盤整備に応用しようとする。 ○施工器具、機械の名称や基本操作について理解し、正確な実験結果を得るために創意工夫ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○社会基盤工学のあるべき姿と、それに対する現状の認識から問題点を見つけ、解決策を考えることができる。 ○応用問題の解法を自分の言葉で表現し、説明できる。 ○自ら問題を解決するための実験内容を考え、見通しを立てて実験、考察を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 ○応用問題に積極的に取り組む姿勢を持つ。 ○友人と協働し、試行錯誤を繰り返しながら、問題解決に向けて取り組むことができる。
	ス テ ッ プ	<ul style="list-style-type: none"> ○社会基盤工学と環境や生物との関わり、土木資源の確保などを総合的に理解し、地域社会基盤整備に興味・関心を持つ。 ○施工器具、機械の名称や基本操作について理解し、正確な実験結果を得ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○社会基盤工学のあるべき姿と、それに対する現状の認識から問題点を見つけることができる。 ○基本問題の解法を自分の言葉で表現し、説明できる。 ○教師の助言により、実験内容を考え、見通しを立てて実験、考察を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書で学んだ範囲に対し、復習を行っている。 ○板書だけでなく、教師の説明をメモするなど自分のノートを作る。 ○試行錯誤を繰り返しながら、問題解決に向けて取り組むことができる。
	ホ ッ プ	<ul style="list-style-type: none"> ○社会基盤工学と環境や生物との関わり、土木資源の確保などを総合的に理解している。 ○施工器具、機械の名称や基本操作について理解し、教師の助言のもとで実験ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○社会基盤工学のあるべき姿と、それに対する現状の認識から問題点を見つけ出そうと努力する。 ○教師の助言のもとで基本問題の解法を自分の言葉で説明できる。 ○教師の助言や友人と協力して実験、考察を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ノートやプリントの整理ができる。 ○提出物や課題等を期日までにやり遂げる。 ○振り返りを大切にし、改善すべき点について考えようとする。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 社会基盤工学（実教出版）
副教材

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容			
1学期	(1) 社会基盤整備 ア. 土木の歴史 イ. 社会資本と社会基盤の整備 ウ. 災害と国土の基盤整備 エ. エネルギーの基盤整備 オ. 環境の保全		
2学期	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> (2) 交通と運輸 ア. 道路 イ. 鉄道 ウ. 港湾 エ. 空港 </td> <td style="width: 50%;"> (3) 水資源 ア. 利水 イ. 治水 </td> </tr> </table>	(2) 交通と運輸 ア. 道路 イ. 鉄道 ウ. 港湾 エ. 空港	(3) 水資源 ア. 利水 イ. 治水
(2) 交通と運輸 ア. 道路 イ. 鉄道 ウ. 港湾 エ. 空港	(3) 水資源 ア. 利水 イ. 治水		
3学期	(4) ア. 都市計画 イ. 環境と景観 ウ. 防災		

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・講義やグループワークなどを活用して、問題や課題と向き合う。
- ・授業を大切に、粘り強く学習することを心がける。
- ・仲間やグループで話し合いや意見交換を行い、自身の考えと他者の考えを比較・検討する態度を持つ。
- ・社会基盤工学に関する小さなことでも、創造力を生かした発想や論理的に物事を考える習慣を大切に
- ・提出物は丁寧に仕上げ、提出期限を守る。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査 ・単元毎テスト （実技テスト含む）	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・学習ノート	・学習ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

2年 組 番	氏名
--------	----